

県民の森 花ごよみ 8月号

～裏面に開花・結実の調査結果を掲載～

クサギ (L,M)



枝や葉をちぎると強い臭いがあることから名付けられた。10～11月に熟す藍色の果実も美しい。落葉小高木。
〈シソ科〉

オミナエシ (B,E,G)



秋の七草のひとつ。葉を生干しにしたり、生け花にしたものは切り口から悪臭を出す。根茎は横にはい、株のそばで新苗をつくってふえる。
〈スイカズラ科〉

ノハラアザミ (全域)



ノアザミによく似ているが、初夏にかけて咲くのはノアザミ。ノアザミは総苞(そうほう)が粘るが、ノハラアザミは粘らない。花期：8月～10月
〈キク科〉

ワレモコウ (全域)



日当たりの良い草地に生える多年草。7～10月に楕円形の赤紫の花序をつけ、花は上から下へ咲いてゆく。名前の由来ははっきりしない。
〈バラ科〉

センニンソウ (G)

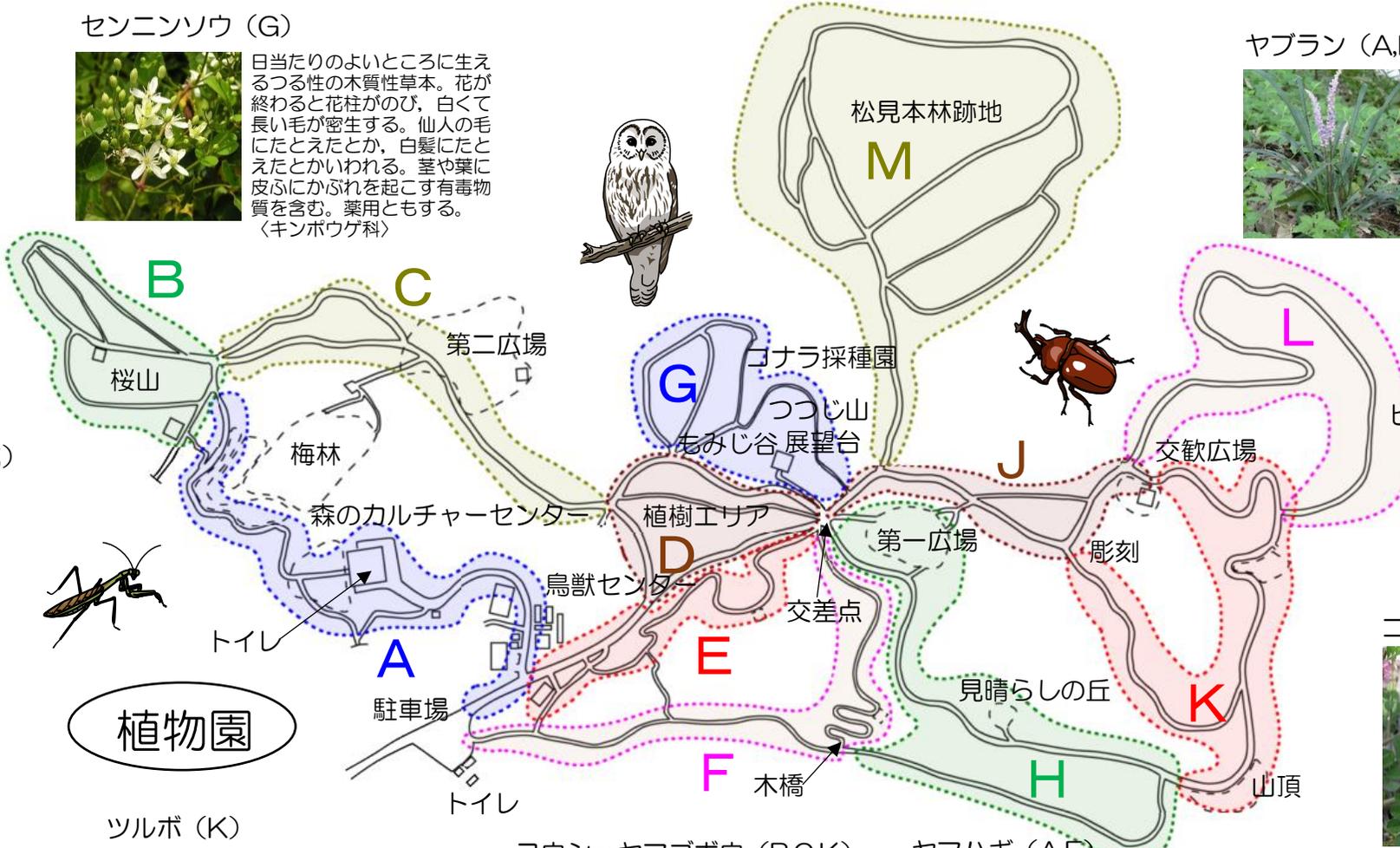


日当たりのよいところに生えるつる性の木質性草本。花が終わると花柱がのび、白くて長い毛が密生する。仙人の毛にたとえたとか、白髪にたとえたとかいわれる。茎や葉に皮ふにかぶれを起こす有毒物質を含む。薬用とする。
〈キンポウゲ科〉

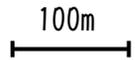
キツネノマゴ (全域)



道ばたなどにふつうに見られる高さ10～40cmの一年草。
〈キツネノマゴ科〉



植物園



ツルボ (K)



別名：サンダイガサ
高さ20～40cmの多年草。ツルボの語源は不明。別名の参内傘とは、公家が参内するとき従者がさしかけた傘をたたんだ形と花序が似ていることによる。
〈クサスギカズラ科〉
〈キジカクシ科〉

ヨウシュヤマゴボウ (B,C,K)



北アメリカ原産の多年草で、明治初期に渡来。高さ1～2m。根はゴボウに似ているが有毒。果実は黒紫色に熟し、つぶすと紅紫色の汁がでる。
〈ヤマゴボウ科〉

ヤマハギ (A,E)



高さ1～2m。日本の山野にふつうにみられるハギ。秋に黄葉する。
〈マメ科〉

ヤブラン (A,B,H,K)



庭や公園などに下草としてよく植えられている。山野の木陰に生える多年草。花茎(かけい)は高さ30～50cm。
〈クサスギカズラ科〉
〈キジカクシ科〉

コマツナギ (全域)



高さ40～80cmの草本状の小低木。名は、茎は細いが馬をつなげるほど丈夫なことによる。日当たりがよく、やや乾いたところに群生。
〈マメ科〉

8月の県民の森で観察された花と果実

調査：令和5年8月16日，県民の森等ボランティア

観察エリア	観察された花や果実
県民の森全域に点在	アキノタムラソウ、ガンクビソウ、キツネノマゴ、キンミズヒキ、コマツナギ、サジガンクビソウ、シラヤマギク、ツリガネニンジン、ヌスビトハギ、ノハラアザミ、ハギ類（ヤマハギ、ツクシハギ、マルバハギ）、ヒヨドリバナ、ミズヒキ、ワレモコウなど
A 駐車場～森のカルチャーセンター～桜山	センニンソウ、ノゲシ、フジカンゾウ、ブルーベリー（実）、ヤブランなど
B 桜山	オオバギボウシ、オトギリソウ、オミナエシ、コバギボウシ、サウヒヨドリ、タカトウダイ、タムラソウ、ヤブラン、ヨウシュヤマゴボウなど
C 桜山～第二広場～植樹エリア	タムラソウ、トウバナ、ユウガギク、ヨウシュヤマゴボウなど
D 植樹エリア	キキョウ、コヤブタバコ、シュウブンソウなど
E 鳥獣センター～遊歩道～交差点	オオバギボウシ、オミナエシ、キダチコマツナギ、クサギ、コヤブタバコ、タカトウダイなど
F 駐車場～木橋～交差点	イタドリ、ギシギシ、キダチコマツナギ、クズ、コヤブタバコ、タカサゴユリ、ツルニガクサ、ナガバミズアオイ、ノブドウ、ヤブガラシ、ヤマコウバシ（実）、ヤブマメなど
G つつじ山、もみじ谷周辺	オミナエシ、クズ、コバギボウシ、センニンソウ、タカトウダイ、タムラソウ、ヤブガラシ、ヤマニガナ、ユウガギクなど
H 第一広場～見晴らしの丘～木橋	ダイコンソウ、ユウガギク、ヤブラン、リョウブ（実）など
J 交差点～交歓広場	ウド、オトギリソウ、コバギボウシ、サウシロギク、シュウブンソウ、センボンヤリ（閉鎖花）、タムラソウ、ノダケなど
K 交歓広場～山頂～彫刻	コバギボウシ、シュウブンソウ、ダイコンソウ、ツルニガクサ、ツルボ、ハエドウスオウ、ミズタマソウ、ヤブラン、ヨウシュヤマゴボウなど
L 交歓広場～ヒノキ林～T字路	クサギ、ダンドボロギク、ヌマトラノオ、ノゲシ、ママコノシリヌグイ、ヨウシュヤマゴボウなど
M コナラ採種園～松見本林跡地	イヌホオズキ、ウド、オトギリソウ、クサギ、ダンドボロギク、ツルニガクサ、ユウガギクなど

※県民の森での山菜や山野草，果実の採取は禁止です。生物多様性と生態系の保全のため，植物の保護にご協力をお願いいたします。